

公益信託広島まちづくり活動支援基金 第17回助成事業成果発表資料

<団体名>

所在地 広島市安佐南区安東5丁目15-22  
 ひろおくだんち じしゅ ぼうさいかい  
 団体名 弘徳団地 自主防災会  
 代表者名 柳原 隆 司

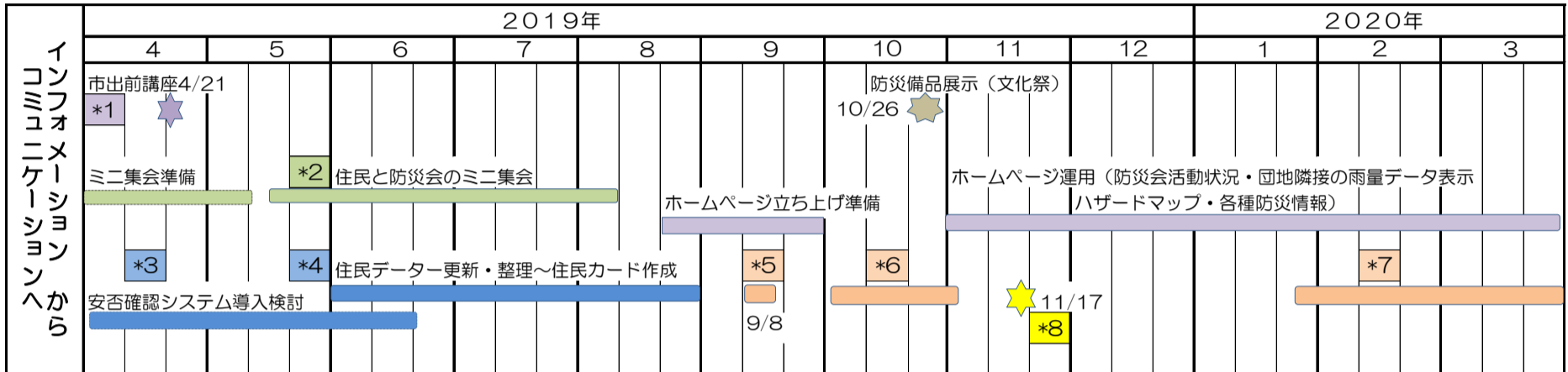
<団体の紹介>

約1300戸、3500人が居住する団地で、平成23年5月に団地の一部(251戸)が「土砂災害警戒区域」に指定された。平成26年度の自治会役員の提案で、防災、特に土砂災害警戒区域の防災について勉強会を始めた。同年8月には広島土砂災害の発生もあり、まずは土砂災害について広島市の土砂災害警戒避難マニュアルによる体制を構築し、同年10月より防災活動を開始した。令和元年7月より土砂災害警戒区域外の「避難行動要支援者」を対象にした安否確認も活動に加えている。尚、防災会メンバーは、防災委員23名と協力委員7名及び専門委員51名で活動をしている。

\*協力委員-平時、災害時ともに防災委員の要請に応じ防災活動を応援  
 \*専門委員-災害時に防災委員の要請に応じ防災活動を応援

<活動状況>

「弘徳団地自主防災会ポータルサイトの運営～防災会の情報共有化」



\*1 4/21に広島市出前講座「平成30年7月豪雨災害と今後の防災対策について」を開催

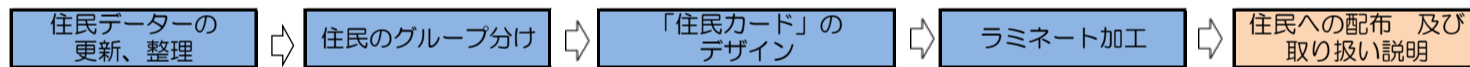
\*2 土砂災害警戒区域住民と防災会のミニ集会を開催

- ・5/12～8/4日の期間で、対象の233世帯を20世帯程度で11グループに分けて、集会を11回開催をした。参加者数は89名で参加率は38%であった。
- ・住民と防災会で、土砂災害発生のメカニズムや災害への備えと早期避難がいかに重要かを話し合う。
- ・ミニ集会開催の1ヶ月前に案内状を各戸にポストイングで連絡をし、更に開催5日前に会長、地区担当者が各戸を訪問し、案内状を手渡して集会参加への意識喚起を図った。

\*3 「情報共有型安否確認システム」(システム名称-スマート自治会)の導入理由

- ・団地には高齢者も居られますので、QRコードを読み込むことで、ポータルサイトにアクセスできる機能を持っている。
- ・防災会の様なコミュニティの場合、防災委員も被災者になる可能性もあります。この「安否確認システム」は安否を管理する人が必要なく、発信された安否情報を住民みんなで共有し、自らの判断で助け合うことができる情報源となるツールである。

\*4 「住民カード」の作成と配布までの手順



\*5 9/8に防災委員、協力委員対象の「安否確認システム」取り扱い説明会を開催 - \*30名の内21名参加(参加率70%)

\*6 10/6～10/27に7区土砂災害警戒区域住民対象の「安否確認システム」取り扱い説明会を4回開催。

\*7 1/26～3/1に1区～6区土砂災害警戒区域住民、1区～4区専門委員対象の「安否確認システム」取り扱い説明会を6回開催。  
 \*1～4区避難行動要支援者、5～7区専門委員の説明会は、新型コロナウイルス対応のため中止し、会長と担当者が戸別訪問をし説明。  
 \*土砂災害警戒区域(1区～7区)住民の説明会の参加状況は、229世帯の内95世帯が参加(参加率41%)

\*8 11/17に7区土砂災害警戒区域-「安否確認システム」を使った避難訓練実施(試験)対象戸数93世帯の内47世帯の参加(参加率52%)

<「住民カード」からの情報の発・受信(情報の共有)>



\* お年寄り等のIT弱者の方に対しても、周りの方がその代わりに情報を発信し、無事の安心をみんなで共有できます。

ID	班名	お名前	避難状態	支援	メモ	確認時刻	サポートメモ
1000	1班	安否 太郎	自宅待機			20日 11:18	書込
1001	1班	河合 研五	避難場所		小学校に避難中	20日 11:21	書込
1002	1班	大沢 雅則	親戚知人		親戚にいます。	20日 11:21	書込
1003	1班	稲垣 武俊	自宅待機	支援出来ます	家族みんな自宅にいます。	20日 11:22	書込

<活動成果と今後の課題>

2019年度は「インフォメーションからコミュニケーションへ」をキャッチフレーズに「公益信託広島まちづくり活動支援基金」の助成を頂き、防災活動を人海戦術から、<ICT活用>へと展開すべく取り組みを行いました。

5月中旬から8月初旬にブロック別に11回の「ミニ集会」を開催し、早期避難やお互いの安否確認が如何に大切かについて話し合い、相互の理解を今まで以上に深める事が出来ました。

「安否確認システム」の住民への取扱い説明を10回に分けて行い、一部試験的な避難訓練を実施しました。今後は「安否確認システム」を使った全体の避難訓練を実施し、住民への展開と定着に取り組んでいきます。又昨年度からスタートしたホームページから効果的に情報発信し、住民の災害防止と防災会との相互理解に努めていきたいと考えています。